

令和7年度 第2回大津市環境人育成推進懇話会 議事録

1	日時	令和7年11月18日（火）18：30～20：00	
2	場所	大津市役所 別館1階 大会議室	
3	出席者	<p>8名 ※敬称略 びわこ成蹊スポーツ大学 中野 友博 オーパルオプテックス株式会社 山脇 秀鍊 NPO法人おおつ環境フォーラム 長崎 雄二 滋賀県シェアリングネイチャー協会 辻田 良雄 カワセミ自然の会 橋詰 幸喜 びわこ成蹊スポーツ大学 中川 宏治 滋賀県小学校教育研究会 環境教育部会 石戸 勇雄 幼稚園環境部会 山本 美徳</p>	
4	欠席者	<p>1名 ※敬称略 大津こども環境探偵団エコリーダー 三谷 大樹</p>	

1 開会

2 環境政策課長挨拶

3 座長挨拶

4 議題

（1）県内市町への「環境学習事業の実施状況調査（照会）」の結果について

- ・資料1、2について事務局より説明。

【構成員からの御意見・御質問】

●民間企業・大学との連携について

- ・企業と連携しているという話が出ていたが、市民ヨシ刈りにはいくつか民間企業が参加しているのではないかと思う。企業との連携が広がればよいが大津市ではどうか。

→本市ではまだ企業との十分な連携が取れていないので、課題だと感じている。

- ・前回の大津市環境人育成推進懇話会で話にあがった大学との連携も課題の1つになると思う。大学との連携もあわせて進めていただきたい。そして、他の市町のように実際の環境保全活動をすることで活動指導者育成に繋げていく。そのような活動も今後は考えていくべきだと思う。

・現在、大津市が主催している環境保全活動や、団体と一緒にしている或いは大津市内で行われている環境保全活動の1つが市民ヨシ刈りにあたると思うがどうか。

→そうである。市民ヨシ刈り以外の大きな活動は琵琶湖市民清掃である。琵琶湖市民清掃は主催ではないが、市が自治連合会や青年会議所の支援をしている。約5万人に参加していただいているので、環境保全活動に当たると思う。

・大学の連携先で考えると滋賀大学がキーワードになっていると感じる(昨年度から大津こども探偵団事業でボランティアとして大学生に来ていただいているため。)。龍谷大学は龍谷の森があり、過去に何度か大津市の環境保全活動を行っているのを知っているが、滋賀大学ではあまり聞かない。しかし、滋賀大学も環境教育や関連の講座を行っていると思うので、どうやっていくかは難しいところではあるが連携を取っていくのではないかと思う。

・環境保全活動かわからないが、水辺で活動している企業も夏の水草除去を頑張っているのでそれをやっていること自体が保全活動といえるかもしれない。

・今の件を単なる作業ではなく、活動に関わることで、当事者になり、環境人としての素質を育んでもらえるとよい。市民の方に前向きに取り組んでもらえるような働きかけが良い方法だと思う。

●コーディネーター等について

・今まで一番ベースになる自然環境に興味関心を持ってもらうために20年程やってきた。懇話会ではその次のステップにあえて手を付けてこなかった。ただ、そのような活動を進める中で「環境人」というキーワードをブランド化はおそらくできていない。

・いろんな主体が連携をとるためにコーディネーターを1人配置している市町がある。大津市の行動計画の中でいろんな主体との連携を市として支援するという文言があったが、しっかり連携を取るのであればコーディネーター或いは地域行政職員を地域に配置して行政展開する必要があると感じる。狭い地域ごとにコーディネート専門の人員を配置することは、環境だけでなく文化や歴史など多岐にわたる領域の連携にも繋がると思う。

→現在は存じ上げないが、昔は生涯学習専門員が配置されて、地域のイベント事を推進されていたことを記憶している。

・現在は、全員かどうか定かではないが、いなくなってきたという印象である。

(2) 大津市環境人を育む行動計画（環境教育等行動計画）の中間見直しについて

- ・資料3について事務局より説明。

【構成員からの御意見・御質問】

●市民意識調査の質問内容について

- ・市民意識調査の対象はどういう方か、また、「環境問題に関心のある人が多いと思うか」という質問内容について検討が必要かと感じたが、事務局はどう思われているか。

→対象は18歳以上の大津市民を無作為に2,000人、今回も前回と同じ方法で行う。前回は回答率45.8%、大体1,000人近くに回答いただいている。

→質問内容の「環境問題に関心がある人が多いと思うか」は、環境人を育む行動計画（令和4年に12年まで）の達成指標として設定しており、この状況を確認するための質問項目である。中間見直しにおいて、合理的な理由があり説明できれば、ある程度の修正は可能で、これに伴い次の策定時の確認で質問方法を変更することは可能と考えるが、今回中間見直しとは言え、計画期間中であるため、合理的な理由も無しに、一度立てた指標が簡単に変わるのはよくないと考えている。

- ・質問項目の「環境問題に関心ある人が多いと思うか」は少し分かりにくく、「環境問題」は意味が広いため使うのもどうかと思う。

・調査について「自然環境」、「資源循環」、「脱炭素地球温暖化」、「生活環境」、「環境意識」の見出しある必要ないと思う。環境について聞いているため全回答を平均した数値結果をもって環境に対して関心を持っているかどうか分かると思う。

基本計画6-2(2)実現に向けたステップのとおり、環境問題への関心という環境に興味関心があり、最終的に環境問題に向けて実践行動ができる人が「環境人」であるため三段階すべてについて聞くべきである。

回答結果を細かく見たら、分野ごとの関心が見ていけるかなと思う。環境審議会でも意見を聞いていただきたい点である。

- ・「環境問題に関心がありますか」と聞くと、回答者が「関心がある」と答えようとするバイアスがかかることが指摘されている。意図があるのであれば悪い方法ではない。

●活動指標について

- ・活動指標の環境教育指導者研修の満足度について環境政策課でやっている環境教育の研修会以外に何が含まれているのか。小学校や中学校でも研修をしているので含まれていないのであれば、施策体系（基本計画6-4）との整合性を持たせるためにも含めるべきである。

- ・小学校、中学校の環境教育指導者の研修に関してアンケートはとられているか。
- ・「満足してますか」という聞き方ではないので、どのように集約するのか難しいかと思うが、アンケートを取り教育センターに送っている。
→アンケート結果をいただけるのであれば、活動指標に入れることも検討したい。
- ・活動指標の環境保全活動参加者数に関して、達成のためにも計画にあがっていない事業を掘り起こし、参加人数としてきちんと数値にあげていただきたい。達成のためだけでなく活動が取り上げられることにも意味がある。
- ・「やまのこ」に行っている子供の数を環境保全活動参加者数に入れてはいけないか。小学校4年生、それから、ふるさと学習における中学校1年生の数を入れたらよいと思う。
→今回は中間見直しであるので、環境保全活動参加者数にカウントする対象を増やすには計画当初の指標の意図や基準が違わないようにしないといけない課題がある。

●大津市の里山活動について

- ・生物多様性、滋賀県の生物多様性を考えたときに琵琶湖はもちろんだが、森林の雑木林、里山の森林整備も重要だと思う。資料ではヨシ保全事業、河川愛護団体など琵琶湖に関係する事業が多く、雑木林の管理が不足している気がする。市の方針として生物多様性を重視していると理解したが、それならば、「環境人」を育成する中で生物多様性の保全を踏まえた偏りのない取り組み、森林に関しても知識を深めたり、特に若い子供たちが地域の知識が深まるような取り組みも必要だと思う。新たに施策体系の取組を加えるとしたら、担当課と連携できると良いと感じた。市役所での担当課はどこになるのか。
- 農林水産課である。
- ・自然家族事業の中で「里の日」があるが、それもキーワードとなると思う。
- ・「うみのこ」、「やまのこ」、「たんぼのこ」は滋賀県の取組として扱い、計画には入っていないが、入れたほうがいいのではと感じている。いわゆる、里山の活動は、まさしく「やまのこ」事業で、葛川少年自然の家でやっていることである。
- ・市の取組に県の事業を入れられないと思っていたが、実務的には市がしているようだと思った。「やまのこ」は森林環境教育であるため、まさに「環境人」の育成である。この2つの繋がりがあることで学校教育でも「環境人」の育成に携わっていると感じられると思う。「うみのこ」も同様である。

●学校教育との連携について

- ・学校教育でやるものは教育委員会にお願いし、事業のすみ分けをしていたが、今は一緒にしていいのではと思う。だから、施策体制(5)教育拠点活用に教育委員会の葛川少年自然の家を入れてほしい。青少年の教育、「環境人」を育てるための施設としてすごく重要な施設であるので、計画に記載したい旨を教育委員会に相談していただきたい。
- ・ふるさと体験学習で「やまのこ」が始まる前から大津市はずっとその自然活動をやっている。琵琶湖のことばっかりじゃなくて「やまのこ」もあるのに感じていた。ぜひ、全体で計画に入れてもらいたい。
- ・小学校の先生方は環境学習について熱心に取り組まれている。計画の中に先生方が見て参考にしたり、目に留まるような内容を別表でも構わないので取り入れてほしい。そうでないと先生方が計画を読んだときに内容が頭に入っていかないと思う。
- ・個人的な意見であるがそれ全部計画に書くととても大変なことになる。計画推進のために環境政策課か教育委員会か分からぬが、そのための研修会の実践集などがあると良いなとは思う。
- ・学校教育における環境学習の推進の内容について、環境学習の時間を確保するのが難しいのであれば工夫をして、環境学習の時間を土日にして、例えばPTAや自治会の方々に来ていただけるようなインセンティブを与えるなどの工夫が必要だと思う。
- ・担当が学校教育課であるので、環境政策課でわからない部分があると思う。
- ・学校は本当に色々なことをしなければならない。そのうえ、子どもたちは塾に行ったり、スポ少に行ったり本当に忙しい。地域によってはPTAを集めて頑張っているが、様々な考え方の保護者がいるなか、環境だけに焦点を当てた活動はできない。
- ・他の市で農業で地域を守る活動に関わっている。だから、地域の方々と環境学習をする形もある。

●地域連携について

- ・幼稚園も含め学校で地域独自の環境学習ができるのは、地域の方に協力していただいているからだと思う。このような学習も取組の1つとしてあげてほしい。
- ・話が戻るが昔と比べて人間関係が希薄化している。自治会、子供会、PTAにも入らない人やそもそもなくなっている地域がある。希薄な世の中だからこそ、環境自然活動を通じて人との関わりを持ちたいが、土日の子どもは忙しいこともありジレンマを感じている。

●その他

- ・大津市の南北問題にも関係するが、自然環境が少ない地域の方々に環境教育の機会を提供するために観光と環境教育を掛け合わせ、環境について学ぶような事業が担当課と連携してできるとメリハリがつく。
- ・計画で新しい言葉を使うのは構わないが、むやみに横文字の言葉を使わず皆が理解しやすいよう配慮してほしい。

5 議題

指導者研修会実施報告について

- ・資料4のとおり事務局より説明。

6 議題

その他

なし

閉会